啓林堂書店外商部　担当:森川、表野
TEL0743-51-1000／FAX0743-53-5151

書名	観光学の今を問う			著者名	安村　克己／著		
出版社	学文社	ISBN	978-4-7620-3240-0	本体価格	¥1,700	発売	2023/5/1
内容	“観光学の原点”に立ち戻り，観光学“本来のあり方”を問い直す。“観光学の原点”に準じて現在の観光学が抱える課題を洗いだし、課題解決の糸口を探る。「観光学“本来のあり方”があるとすれば，それはどのような“あり方”なのか。」						

書名	奈良 こだわりのカフェ&お店案内 カフェ・パン・スイーツ・雑貨たち			著者名	あんぐる／著		
出版社	メイツ出版	ISBN	978-4-7804-2763-9	本体価格	¥1,680	発売	2023/5/1
内容	珈琲がおいしかったり、店主との話が楽しかったり、懐かしい雰囲気に癒されたり。 本書では、お気に入りと出会えるお店をご紹介します。 町の中へ、路地の奥へ、歩けば歩くほど、知らなかった奈良が見つかります。変わらない風景のなかにある、ステキな奈良を探してみてください。						

書名	まじなひの研究			著者名	水野正好／著		
出版社	高志書院	ISBN	978-4-86215-236-7	本体価格	¥18,000	発売	2023/5/10
内容	望みの成就を願い、苦しみの祓除をかなえる「まじなひ」には、目には見えない人間の心根がはたらいている。本書は、古代・中世・近世の考古資料の読み解きに、古記録類や呪法書の史料情報を組み合わせて、多様な呪的世界を蘇らせる稀代の歴史書である。資料がないから「わからない」ではなく、「あなたならどうする」と筆者は読者に語りかける。						

書名	増補改訂版　奈良「地理・地名・地図」の謎			著者名	監修／奈良まほろばソムリエの会		
出版社	実業之日本社	ISBN	978-4-408-42137-7	本体価格	¥1,000	発売	2023/5/10
内容	本書は、平成二六年（二〇一四）二月に刊行した旧版の増補改訂版である。旧版では合計七八本の謎を取り上げたが、今回は九年間の変化をふまえ、総本数は同じだが、旧版で取り上げられなかった一二本の新たな謎を取り上げた。（中略）。本書で取り上げられた「地理・地名・地図の謎」は、奈良県の長い歴史の積み重ねの結晶として現れてきたものであり、それは本文を読んでいただければ、よくわかっていただけるだろう。						

啓林堂書店外商部　担当:森川、表野
TEL0743-51-1000／FAX0743-53-5151

書名	古代の郡役所と豪族			著者名	編集／栗東市教育委員会		
出版社	サンライズ出版	ISBN	978-4-88325-791-1	本体価格	¥2,000	発売	2023/5/10
内容	1986・87年に発掘調査が行われた滋賀県栗東市の岡遺跡は、奈良時代の郡衙（郡役所）遺構が広範囲に見つかり、全国的にも貴重なものとして知られている。発掘から35年を記念し、2022年6月に催されたシンポジウムの講演と討論を書籍化。近年調査が進んだ草津市の鋳造関連遺跡、郡衙の前を通過していた古代東海道、郡司を務めた豪族・小槻氏の出自と経歴など、さまざまな視点から近江栗太郡の実相に迫る。						

書名	中華を生んだ遊牧民			著者名	松下 憲一／著		
出版社	講談社	ISBN	978-4-06-531839-3	本体価格	¥1,700	発売	2023/5/15
内容	拓跋部は、モンゴル高原の騎馬遊牧集団・鮮卑に属する一部族だった。3世紀、部族国家を築いて歴史に登場し、386年には拓跋珪が北魏王朝を開いて、五胡十六国の混乱を治めた。北魏では、皇太子の母が死を賜る「子貴母死」や、亡き父の妃を息子が娶るレビレート婚など、遊牧社会の伝統を残しつつ、雲崗・龍門の石窟寺院で知られる仏教文化や、名君・孝文帝の漢化政策により文化の融合が進み、「新たな中華」が形成された。北魏の首都・洛陽の平面プランは、唐の都・長安に受け継がれ、さらに奈良・平城京へともたらされるのである。						

書名	秀歌十二月			著者名	前川 佐美雄／著		
出版社	講談社	ISBN	978-4-06-531426-5	本体価格	¥1,050	発売	2023/5/15
内容	日本を代表する歌人が、珠玉の名歌を季節ごとに精選した究極のアンソロジー。初心者にもわかりやすくその魅力を解説する、極上の短歌体験！柿本人麿、藤原定家、良寛、正岡子規、石川啄木など、八〇人以上に及ぶ古今の歌人から一五〇首以上の歌を選り出し、その魅力を解説し、初心者にもわかりやすく読んでいく。いつの世も変わらぬ人生の愉悦、悲哀、そして無常をも心ゆくまで堪能する、贅沢なひとときがここに。						

書名	古墳とはなにか 認知考古学からみる古代			著者名	松木　武彦／著		
出版社	KADOKAWA	ISBN	978-4-04-400763-8	本体価格	¥1,040	発売	2023/5/23
内容	なぜ、日本列島に前方後円墳のような巨大古墳が生まれたのか。長をまつる巨大な墳丘を「見上げる」行為や、石室の位置や様式、埴輪、また鏡・刀などの副葬品から、古代の人びとは何を感じとっていたのか。竪穴式石室から横穴式石室への大転換はどのように起きたのか。人の心の動きの分析を通じて解明。神格化の装置から単なる墓へ。3世紀から7世紀の日本列島に16万基も築かれた古墳とは何であったかを問う、認知考古学の最前線。						